刊行の辞

海域アジア・オセアニア研究は、2022 年 4 月より人間文化研究機構「グローバル地域研究」プログラムの一環として始まった。この研究プログラムは、アジア、アフリカ、アメリカ大陸といった陸地の地理的区分というよりは、地中海、インド洋、太平洋のような海域を跨ぐ、クロスカルチュラルな文化と人間活動の広がりに重点を置くことに特徴がある。海域アジア・オセアニアは、環太平洋の西側を中心として東アジア、東南アジア、オセアニアを跨ぐ地域を主要な研究対象とするが、明確な境界はない。むしろ、日本の南西諸島、台湾、中国南部沿岸部、東南アジア島嶼部、オセアニア島嶼部を中核エリアとし、そこからグローバルに拡がる現象を捉えようとする。

海域アジア・オセアニア研究プロジェクトは、国立民族学博物館、京都大学、東洋大学および本拠点（東京都立大学）により構成される。本拠点は社会・文化人類学を中心とし、東アジア、東南アジア、オセアニアという地域枠組みに収斂されない、近現代の人、物質、技術、情報のフローを捉えることを目的としている。

東アジア、東南アジア、オセアニアの研究は、これまで個別の学会により組織・運営されてきたが、それに象徴されるように、それぞれ別個の地域研究の枠組みのなかで発展してきた。だが、海洋という視点から捉えると、それらの世界を閉じた個別の領域として理解することはできない。たとえば、オセアニア島嶼部の場合、20 世紀に入るまでに東アジアや東南アジアの資本が入り始め、アジア由来の物質文化がオセアニア先住民の間に浸透するようになっている。また、オセアニアと台湾と日本の間には、先住民間のネットワークが築かれ、情報の交換がおこなわれてきた。他にも、台湾や沖縄は、中国大陸と日本だけでなく東南アジア、オセアニアなどとの関係のなかで、自己の社会・文化を不断に再定位してきた。本拠点は、このような境界を跨ぐボーダーレスな状況を把握するとともに、個々の事例を重ね合わせることで、海域アジア・オセアニア世界の諸相を明らかにすることを目指している。

本ウェブサイト掲載の『海域アジア・オセアニア NEWSLETTER（以下、『NEWSLETTER』)』は、このような指針に従い、個々の研究者の調査成果の一端を掲載するものである。全体的に、この『NEWSLETTER』は、個々の研究者の自由な発想や最新の調査データを発表できる場としたいと考えている。近年の社会・文化人類学では、型にはまらない発想を述べる場や、ベタな調査データを記録として残しておく場が、ますます減少しているようにみえる。だが、たとえ覚書や旅行記のような文章であっても、その地域の研

究では貴重な論点やデータになることもある。このような考えに基づき、本『NEWSLETTER』では、下記の 5 つの欄に区分し、海域アジア・オセアニア研究プロジェクトに関連する研究成果を掲載する。

① 論説：まだ論文とはなりきらない新たな発想、理論・方法、もしくは論評を中心とする。【字数：8000-12000 字目安】。
② 調査報告：特定のトピックに沿い、フィールドワークで収集した調査データを記述する。1～2 年以内に調査した新しいデータの記述が望ましいが、過去に収集し資料／史料的な価値を有する調査データも歓迎する。【字数：8000-12000 字目安】
③ エッセイ：調査報告の短縮版、旅行記、見聞録、もしくは近年考えていることなどを自由に記す。【字数：1500-2000 字目安】
④ 書評・文献紹介：海域アジア・オセアニアの先行研究となる本の紹介・再読、最新の書籍の紹介・批評などをおこなう。【字数：2000-3000 字目安】
⑤ 活動報告：前年度のシリーズ講演会の要約、および主要なイベントの紹介をおこなう。

海域アジア・オセアニア研究は、東アジア、東南アジア、オセアニアという地域枠組みを超えたボーダーレスな現象を捉えることにある。ただし、ボーダーレスな状況を捉えるためにはまず特定の地域におけるフィールドワークが必要になることがある。そのため、この『NEWSLETTER』は、ボーダーレス研究を主軸に据えつつも、海域アジア・オセアニア圏内における特定地域のフィールド・データも掲載することにしている。また、本拠点の活動はウェブサイトの別のページでも掲載しているが、このページでも年度ごとの研究活動の一端をお伝えできればと考えている。

刊行期間は海域アジア・オセアニア研究プロジェクト実施期間中（2022 年 4 月～2029 年 3 月）で、年 1 回の刊行予定である。また、上記の 5 つの区分を満遍なく揃えることにこだわらず、1 年の間に拠点に寄せられた文章を集約することを編集方針とする。本『NEWSLETTER』の各々の原稿が、海域アジア・オセアニア研究の発展、および読者の研究に、少しでも貢献できることを切に願っている。

海域アジア・オセアニア研究プロジェクト
東京都立大学拠点代表 河合 洋尚